

(別紙)

成果の説明書

(氏名)増田 正	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①研究上の成果</p> <ul style="list-style-type: none">・科学研究補助金・基盤 C「地方議会会議録のテキストマイニングによる審議内容の可視化に関する研究」の最終年度であり、冊子体の成果報告書を作成し、地方議会事務局並びに研究者 148 か所に送付した。送付先は、政令市、中核市、(施行時)特例市、県内議会、研究者である。本年度は、同報告書収録の研究論文として「計量テキスト分析によるわが国地方議会の審議内容を可視化する方法について」(『地域政策研究』19-3, pp.161-175, 2017.2)を執筆した。研究は、地方自治の基礎論的研究として、地域ガバナンスの改善に寄与することを企図している。・2014年の日本政治学会発表論文(「フランスにおける政治資金制度と実証」)を一部修正し、「2012年フランス国民議会議員選挙における選挙運動支出の効果に関する実証分析」(『地域政策研究』19-4, pp.71-88, 2017.3)として掲載した。 <p>②教育上の成果</p> <ul style="list-style-type: none">・主権者教育の必要性の高まりがみられる中で、群馬県選挙管理委員会との連携(7年目)を継続し、学生を主体とした投票啓発団体「TCUE 投票ファクトリー」の顧問として、積極的に学生を支え、座学のみならず、地域課題に関わる実践的な活動にもバランスよく取り組んだ。18歳選挙権の導入を契機として、とくに参議院議員通常選挙の啓発活動に熱心に取り組んだ結果、TCUE 投票ファクトリーは総務大臣表彰(平成28年12月6日)を受けた。また、ここ数年間の継続的な努力が認められ、明るい選挙推進優良活動賞(平成29年2月27日)も受賞できた。社会から評価される、学生の自主性・自立性を高める教育が実践できたと喜んでいる。これらの諸活動により、本学の名誉を高めたため、増田ゼミは本年度学長表彰、同窓会三扇賞を同時受賞した。・大学院教育分野では、主査として後期課程修了者(博士)を1名輩出した。 <p>③社会貢献上の成果</p> <ul style="list-style-type: none">・群馬県個人情報保護委員を4期・8年務め、9月に退任した。また、高崎市男女共同参画審議会会長として、この年度末で2期目(4年間)が終了した。副会長時代を含めると3期・6年この問題に取り組んでいる。・日本地域政策学会常任理事(2期目)、日仏政治学会幹事(2期目)として、学術研究の促進に努めている。・平成19年以降、群馬テレビの選挙開票速報ゲスト解説者を不定期に務めている。今年度は、参議院議員通常(平成28年7月10日)、前橋市議会議員選挙(平成29年2月12日)の番組に出演した。また、新聞、ラジオ、テレビ等へのコメントを多数提供した。ゼミ生と取材を受けたり、出演したりすることで、県内の若者への波及効果もあったのではないかと。	
<p>2 その他の事項</p> <p>大学行政</p> <ul style="list-style-type: none">・地域政策研究科長として、大学の認証評価、第2期中期計画の策定、全学人事評価などの職務に適切に対応した。・地域政策研究科長職は4年目(2期・2年目)であり、大学院改革に積極的に取り組み、コース制、入試改革、(M1/M2)中間報告会などを実現させた。このところの3年制コ	

ースや時間割の柔軟化などの諸改革により、博士前期課程において、社会人志願者の増加がみられるようになった。

3 次年度以降の計画・抱負

・次年度は第 2 期中期計画の初年度にあたる。新体制のもと、研究科長として再任（3 期目）されたので、研究科専任教員や学部若手教員などと緊密にコミュニケーションしながら、開かれた活力ある研究科の構築に向けて努力したい。そのため、引き続き、大学院改革委員会（3 年目）を設置する。委員会を司令塔にして、柔軟な方法を取り入れ、無駄を省き、資源を集中させることによって、研究科全体で改善の成果が実感できるようにしたい。

・教育、研究、社会貢献の各分野においても、懸案の諸課題を引き継ぎ、さらにパフォーマンスを高めるべく、しっかり取り組んでいきたい。